



# 福祉のうごき

2018年8月26日～9月25日

Movement of welfare

●**県内年齢別人口「老年」、「年少」の2倍**  
 県は31日、今年1月1日現在の県内の年齢別人口統計を発表した。1976年の統計開始以降初めて、老年人口(65歳以上)が年少人口(0～14歳)の2倍に達し、少子高齢化の傾向が一層鮮明になった。

●**横浜市、空き室活用で要配慮者へ家賃補助**  
 横浜市は、賃貸住宅への入居を断られやすい低所得者や高齢者、外国人、障害者ら住宅確保要配慮者を対象に、空き室などを活用した家賃補助事業を今秋から始め、月額最大4万円を補助する。家賃補助は県内で初めて。

●**17年度の児童虐待相談対応が最多13万件**  
 子どもの心を言葉や行動で傷つける「心理的虐待」が、2017年度までの5年間で3倍に増え、同年度の虐待の総件数の半数を超えたことが厚生労働省の調査で分かった。特に子どもの前で親が配偶者に暴力を振るう「面前DV」を、警察が心理的虐待の一つと位置づけ、児童相談所に通告する例の増加が背景にある。

●**厚生労働省、身元保証サービスの手引き作成**  
 入院時の身元保証や死後の遺品整理といった民間の高齢者サポートサービスを巡り、厚生労働省は利用の際の注意点や相談窓口などをまとめた手引きを作成した。意に沿わない契約や金銭トラブルを回避するのに役立ててもらおうのが狙い。

●**県がインクルーシブ教育実践校を拡充へ**  
 知的障害がある生徒が通常の学級で学ぶ「インクルーシブ教育」の拡充に向け、県教育委員会は13日、新たに県立高校十数校を実践推進校に指定する方針を明らかにした。

## 子どもの生活と声を知る〜鶴見から始めよう〜

### ―(特非)サードプレイス講演会開催

18歳未満の子どもの相対的貧困率は13・8%(平成27年)で7人に1人。国では「子どもの貧困対策の推進に関する法律」(平成25年公布)によるさまざまな対策が行われていますが、ひとり親世帯の貧困率は特に高い状況です。

9月24日、横浜市鶴見区で子どもへの貧困に対し効果的な対策を実践できる地域づくりを目指した講演会が開催。民生委員児童委員、町内会関係者、不登校の子どもの支援者など多数の参加がありました。基調講演では、(公財)あすのば

の代表理事である小河光治さんより、1500人アンケート調査に基づく「子どもの生活と声」について報告がありました。

アンケートは、あすのばの「入学・新生活応援給付金」利用者を対象に実施。86%が年収300万円未満の厳しい生活状況でありながら、就学援助や高校給付金の利用が6割止まりであること。また、保護者の子ども時代ひとり親・両親のいない世帯が18%などの状況が把握されました。この結果から、子どもの貧困の

連鎖、必要とする人に情報が届きにくいことなどが見えてきます。

また、あすのばの学生スタッフは「ひとり親家庭で育ち、その生活が当たり前で苦しいとは思わなかった。でも、あすのばとの出会いで自分が貧困の当事者と分かった」と発言。子どもの貧困が見えにくい理由がうかがえます。「声を上げられない子もいることを忘れず、日常の子どもの声を拾ってほしい」とメッセージがありました。子どもの貧困への取り組み、社会全体で子ども・若者を育てること、そのあり方について、より深く考えるきっかけとなりました。

### (企画調整・情報提供担当)

## 石油の日チャリティーコンサート 神奈川県石油業協同組合

神奈川県石油業協同組合では、10月6日を「石油の日」と定めPR活動を実施しています。その一環として平成12年よりフジテレビアナウンサーの軽部真一さんとヴァイオリニストの高嶋ちさ子さんの「プロデュースによる「めざましクラシックス」」をお招きし、「石油の日チャリティーコンサート」を開催しています。

10月6日は昭和48年10月6日に発生し、日本の経済と生活を大きく混乱させた第1次オイルショック。この苦い経験を忘れず石油を大切に使うため「石油の日」が設定されました。

コンサートには本会登録の交通遺児世帯を中心に「招待いただき、また収益の一部を交通遺児援護基金にご寄附いただいています。19年目を迎えた今年のコンサートではスペシャルゲストにイルカさん、ゲストアーティストに南里沙さんを迎え、軽部さんと高嶋さんの軽妙なかけあいと趣向を凝らした演出で、多くの方に素晴らしい演奏と歌声が届けられました。参加した方からは、「楽しいトークが盛りだくさんのクラシックスコンサートで、心癒されるひとときでした」と話してくれました。素敵なヴァイオリンの音色がいつまでも心に残り、訪れた人を魅了していました。

## やさしさのおくりもの



(地域福祉推進担当)